

## 2025年度第2回 開志専門職大学情報学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時 2026年3月3日(火) 14:00~16:00
2. 会 場 紫竹山キャンパス S703
3. 出席者 藤巻副委員長、柄沢委員、木田委員、鈴木委員、黒田委員、原田委員、山田委員、中野委員、新飯田委員、淡路学務課長・社会連携推進部長、宮本学務課員

欠席者 三上委員長

オブザーバー 各務学長

### 4. 会次第

1) 開会の挨拶 藤巻副委員長

2) 出席者挨拶(近況ご紹介)

藤巻副委員長から座席順に全員近況報告をおこなった

3) 前回議事録の確認

藤巻副委員長より、委員全員に内容確認がおこなわれた

4) 情報学部について

以下、(1)~(9)まで事務局淡路より状況報告がされた

(1) 令和7年度の募集状況・入学者選抜について

資料5に基づき状況報告がされた

117名出願(昨年86名に対し136%)だが、専願が60名弱のため定員80名は厳しい見込み。追加入試を予定。

(2) 令和7年度の在籍状況について

資料6より、入学者の推移は定員80名に対し64名(80%)と改善。令和5年度60%、令和6年度59%。

在籍数は221名。うち留学生は4名。今年度入学した留学生3名(中国籍)については大学からの連絡は見ない、課題は提出しない等対応に苦労している。今後も留学生が増えることが予想されるためどう管理・指導していくかが課題。

退学者については情報学部の大きな課題であり、令和4年16名、令和6年18名に対し、現在4名と改善傾向。

#### ●山田委員:

退学の理由は「心身に関する事情」が多いようだが

●淡路:「心身に関する事情」という分類は難しい。心身の病気のこともあるし、何かきっかけで突然大学に登校できなくなるケースやみんながいるところに来れなくなるケースもある。教職員からの連絡に一切反応しなくなり退学というケースも。ただ2024年から新カリキュラムになり、勉強についていけな

いというものは減っている印象。

- 原田委員：今年も臨地実務実習を受け入れた（2年2名、3年2名）が担当教員が、登校できなくなった学生の家に行ったりとサポートをしっかりとやっていた。1年生から4年生まで隙間なく教員が担任として学生をみているが、教員によっては温度差がある（あまりケアをしない教員もいる）のでは
- 藤巻副委員長：1年から4年まで担任があり、隙間がある場合は前の担任から引き継ぐ横通しの関係ができています
- 原田委員：民間企業だと課長等が部下がやめるとペナルティがあったりするかどうか？
- 藤巻副委員長：ペナルティはないが、教職員の共通目標として退学者数を掲げており、今年度は去年の1/3ほどであり対応ができていると感じている
- 鈴木委員：開学当時なかった「基礎ゼミ」という新規科目を2024年から設けた。目的としては、他社とのコミュニケーションがとれるようにすることとレポートの書き方や発表の仕方等スタディスキルを楽しく学ぶこと。退学抑止に効果があったと思う
- 藤巻副委員長：2024年度からだが退学抑止含め一定の効果があつたと認識している
- 黒田委員：中国からの留学生3名は日本語能力に問題があるとのことだが何か入学の条件（N2以上等）はあるか？
- 柄沢委員：N3レベル相当としている
- 藤巻副委員長：入学当時一番日本語を理解していた学生と翻訳機がないと日本語理解が難しかった学生が1年経って、勉強では逆転している。日本語が一番できなかった学生は言葉は通じなくても真摯に勉強に取り組んでいた。まだ若いので日本語能力はあまり気にしなくてもいいように感じる。今後日本語の理解についても検証していきたい
- 中野委員：入学者数増加の理由と学生（授業）アンケートについて教えてください
- 淡路：入学者数増加については、オープンキャンパスの参加率は多くなかったが決定率が高かった。新コースとしてゲームコースとデジタルビジネスコースを新設したことと教員向けの出張授業や高大連携で出張授業をしたことで、新しい大学だが信頼できると認識されたことが原因だと考える
- 中野委員：教員による出張授業は認知度を上げるには非常に効果的だと思う
- 新飯田委員：コースは入学したときから選ぶのか？2年次以降で選ぶのか？
- 淡路：1年次は共通の勉強、2年から選択科目を選ぶ
- 新飯田委員：ゲームコースが人気がありすぎて、希望通りのコースが選べないということはあるか？

- 鈴木委員：希望通りにならないこともありうるが定員というのではない。ただ教員の数は限られている

(3) 令和7年度の臨地実務実習について

資料7より、今年度の特徴は臨地実習Ⅰは26実習先のうち11社、臨地実習Ⅱは22実習先のうち11社とほぼ半数が宿舎が必要な県外実習先。今年度初めて海外でも実習を実施した。(インド工科大学マドラス校)当初4週間の予定が学生ビザ取得の問題で2週間に減った(不足の2週間についてはリモートで日本にて実施)が次年度にむけて大変よい経験になった

(4) 令和7年度の就職状況について

資料8より、卒業生61名の進路決定情報。特徴として上場している企業が多いこと、臨地実習先に内定が増えた。(25卒50%に対し、26卒72.4%)

- 山田委員：起業している学生がいるが情報学部には起業に関するカリキュラムはあるのか？

- 淡路：アントレプレナーの科目は多くはないが大学全体として「起業のための休学」という制度がある。また情報学部の教員に起業家がおり、授業の中でも起業について意識したものをやっている

- 藤巻副委員長：その他事業創造学部に「起業家道場」というのがあり、その学生は参加していた

(5) 令和8年度に向けたカリキュラム改定について

(6) 新たなコースの設置について

(7) 展開科目の見直しについて

(8) 各ポリシーの適合について

資料9・10・11より、令和8年度より大幅なカリキュラム改定がある。デジタルビジネスコースとゲームコースの新設及びキャンパス移転に伴い事業創造学部の学生との共通科目が増える。また本協議会での意見をふまえ新カリキュラムにクラウド技術概論を必修科目とした。

- 藤巻副委員長：デジタルビジネスコース導入により、文系の学生が入学するため、情報科目の最低ライン必要な実習の見直しをおこなう必要がある

(9) 学修成果について

資料12より、PROGについて説明がされた。学修成果の可視化(自大学の特徴がわかる)が可能となる。1年生で1回、4年生で1回実施し学生個人の成果を可視化する

- 中野委員：生成AIをどんどん使うようになってきたが、積極的に使ってほしいので新潟大学では「この授業では生成AIを使ってはダメ」「使っていいけど●●●には気を付けて使ってよい」等シラバスに書くようにしている

- 鈴木委員：本学では生成AIの使用は各教員に任されている

- 柄沢委員：教員によっては有料プランのものを使わせている場合がある（ゼミ予算として大学負担）
- 黒田委員：事業創造大学院大学では生成 AI でレポート作成の場合、何%くらい生成 AI が使われているかチェックしあまりにも多いとはじくようにしている

以上